



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月13日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗

TEL 092-724-4927

半期報告書提出予定日 2024年11月13日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	5,484	8.9	97	47.9	94	49.8	46	37.3
2024年3月期中間期	5,037	10.2	186		187		74	

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 50百万円 (43.5%) 2024年3月期中間期 90百万円 (%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	6.80	
2024年3月期中間期	12.33	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	10,301	6,352	61.7
2024年3月期	10,583	6,429	60.8

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 6,352百万円 2024年3月期 6,429百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		24.00	24.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	8.9	230	5.3	215	6.5	99	9.8	14.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	7,062,230 株	2024年3月期	7,062,230 株
期末自己株式数	2025年3月期中間期	155,618 株	2024年3月期	176,195 株
期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	6,891,914 株	2024年3月期中間期	6,066,419 株

第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(中間決算説明会及び中間決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2024年11月13日 (水) にアナリスト向け中間決算説明会を開催する予定です。
中間決算補足説明資料については、説明会当日に会場にて配布及び説明会終了後に当社HPに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更に関する注記)	9
(中間連結損益計算書に関する注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年4月1日から2024年9月30日)におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善による経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調で推移する一方、不安定な国際情勢や、物価の上昇、円安が進行する等、先行き不透明な状況が続いています。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、節約志向が継続する一方、外食業界におきましては、人流の活発化による需要の回復は見られますが、原材料やエネルギー価格の上昇、労働力不足による人件費上昇等、依然として経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況のもと、当社グループは、「ファンを大切にする」という理念のもと、ファンベース経営のさらなる強化、商品事業、店舗事業を併せ持つ強みを最大限に追求したマーケティングの強化を行いました。

商品事業では、商品カテゴリー別の施策強化に加え、商品育成、ブランド力の向上に取り組むとともに、店舗事業では、顧客満足を追求した施策や新規出店効果等により、当中間連結会計期間の売上高は、グループ全体で54億84百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

利益面では、店舗事業は、既存店、新店ともに売上が好調だったことと、原価率改善や効率的な店舗運営等により増益となりましたが、商品事業では、製造原価低減に努めたものの、夏場の野菜価格高騰の影響による主力ドレッシングの売上数量減少と、売上構成変動による粗利率の低下、販管費ではマーケティング強化による費用の増加等により減益となりました。

また全社的な人財投資による人件費の増加や、昨年12月に実施した増資により株主数が増えたことによる株主関連費用の増加もあり、営業利益は97百万円(前年同期比47.9%減)、経常利益は94百万円(前年同期比49.8%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は46百万円(前年同期比37.3%減)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

①商品事業

・ドレッシングカテゴリー

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、サラダの課題をマジカルに解決する『マジカルサラダ』企画でサラダの可能性を広げる活動やキャンペーン等を通し、「ピエトロドレッシング和風しょうゆ」をはじめとする280mlシリーズのマーケティング強化を行いました。「ピエトロドレッシングプレミアムフレンチ」や春夏限定の「ピエトロドレッシング うめ」、9月より発売の秋冬限定「ピエトロドレッシング 和風しょうが」が好調に推移した他、トッピング商品のフライドオニオン「PATFUTTE(パットフッテ)」シリーズは、引き続き、レストランのテーブルで自由にお試しいただける“テーブルマーケティング”を強化するとともに、小袋付きドレッシング企画等で認知拡大を図った結果、順調に売上を伸ばしました。

しかしながら、7月以降の高温や天候不順による野菜価格高騰の影響を受け、主力ドレッシングの売上数量が減少した結果、ドレッシングカテゴリーは前年同期を下回る販売額となりました。

・パスタカテゴリー

第2の柱であるパスタカテゴリーでは、ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」の配荷拡大を目指すとともに、新シリーズ「ピエトロ あえるだけパスタソース」の投入による新規需要の開拓を行いました。

「おうちパスタシリーズ」では世界中で愛されるキャラクター「ムーミン」との初コラボレーションとして、オリジナルグッズがもらえる「ムーミン×おうちパスタ」コラボキャンペーンを9月より実施し、認知拡大を図ってまいりました。

また、レストランの味をご家庭で手軽にお楽しみいただけるレトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」は看板商品の「絶望スパゲティ」を中心に、キャンペーンやSNS等を利用した施策で認知拡大を強化した結果、シリーズ全体で好調に推移しました。

イタリアのパスタブランド「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として販売するとともに、AGNESI200周年を記念した限定セットの販売を行う等、認知拡大を図ってまいりました。その結果、前年同期を大きく上回る販売額となりました。

その他、育成商品である特製ガーリックオイルは、大手量販店に取り扱いされたことに加え、手軽にお試しできる少量サイズを発売したこと等により認知度が向上し、大きく売上を伸ばしました。

以上の結果、パスタカテゴリー全体で前期の販売額を上回りました。

・冷凍商品カテゴリー

成長事業である冷凍食品カテゴリーでは、配荷店舗の拡大を目指すとともに、EC市場での認知拡大を図ってまいりました。特に、レストランオリエティのアルデンテ食感を実現したプレミアム冷凍パスタを中心に拡販強化を行い、2024年春の新商品としてレストランの人気メニューを商品化した「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 絶望スパゲティ」が好調に推移した他、「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」等の定番商品も売上を伸ばした結果、冷凍商品カテゴリー全体では前年同期の販売額を大きく上回りました。

・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして育成中のスープカテゴリーは、自社EC、大手ECモールをはじめ、店舗事業セグメントでもある直販店、レストラン店頭の物販商品として、販売を順調に伸ばしました。シーズンイベントやプライダル関連でのギフト需要が大きく伸びたこと等により前期の販売額を上回りました。

利益面では、製造原価低減に努めたものの、主力ドレッシングの売上本数の減少やドレッシングカテゴリーに次ぐ第2、第3の主力カテゴリーの育成や販売強化による売上構成比の変化に伴う粗利率の低下、マーケティング強化費用の増加等により、セグメント売上高は33億11百万円（前年同期比7.8%増）、セグメント利益は7億95百万円（前年同期比9.6%減）の増収減益となりました。

②店舗事業

レストラン店舗では、「魅力あふれるお店作り」を目指すとともに、さらなるお客様満足度向上に向け、引き続きスタッフ研修の強化など、人財育成に注力してまいりました。メニュー施策として3月に行ったグランドメニューの改定では、ドレッシングメーカーの強みを生かし、“おいしさと見た目の楽しさ”にこだわったサラダメニューの充実を図った他、パスタやドリンクメニュー等も拡充しました。また7月より「辛冷フェア」を実施し、夏季限定メニューとして「生ハムトリコッタチーズの冷製トマトソース」「海老とズッキーニのガーリッククリームソース」を提供するとともに、九州産地魚を使用したメニューや数量限定のオリジナルクラフトビールの販売等、ディナーメニューの強化を行いました。これらの施策の結果、顧客単価、来客数ともに前年同期を上回り、既存店、新店ともに好調に売上を伸ばしました。

PIETRO A DAY ブランドのスープを中心とした直販店舗では、商品の美味しさやこだわりをお客様に直接伝えるため、スープの試飲を積極的に行い、認知拡大に注力いたしました。

利益面におきましては、レストラン店舗の既存店、新店ともに売上が好調に推移したことと、原材料や諸費用の価格上昇に対応するため、グランドメニューの価格改定を行ったことによる原価率の改善、セルフオーダーシステムの導入等による店舗運営の効率化に加え、国内外の不採算店を前期に閉店した効果もあり、セグメント売上高は20億89百万円（前年同期比10.9%増）、セグメント利益は48百万円（前年同期比43.0%増）と増収増益となりました。

店舗の新規出店につきましては以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2024年6月	ピエトロ 横浜ワールドポーターズ店
2024年9月	ピエトロ アミュプラザ長崎店

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビルの賃貸等）事業におきましては、売上高は84百万円（前年同期比2.3%増）セグメント利益は34百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ2億81百万円減少し103億1百万円となりました。これは主に現金及び預金が12億46百万円、売掛金が1億51百万円それぞれ減少した一方、有形固定資産が11億14百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ2億4百万円減少し39億49百万円となりました。これは未払金が1億42百万円、長期借入金(1年内含む)が66百万円、未払法人税等が59百万円、買掛金が51百万円それぞれ減少した一方、リース債務が70百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ77百万円減少し63億52百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分35百万円並びに為替換算調整勘定が5百万円増加した一方、前期決算の剰余金の配当1億65百万円及び親会社株主に帰属する中間純利益46百万円の計上によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	前中間 連結会計期間	当中間 連結会計期間	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	425	160	△265
投資活動によるキャッシュ・フロー	△360	△1,215	△855
財務活動によるキャッシュ・フロー	177	△259	△437
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	19	3
現金及び現金同等物の増減額	258	△1,295	△1,553
現金及び現金同等物の期末残高	1,617	1,271	△345

営業活動によるキャッシュ・フローは、1億60百万円の収入(前年同期は4億25百万円の収入)となりました。税金等調整前中間純利益が1億11百万円であり、減価償却費2億29百万円の計上があったことと、売上債権が1億55百万円、未払金が1億72百万円、仕入債務が53百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、12億15百万円の支出(前年同期は3億60百万円の支出)となりました。有形固定資産の取得(新工場用地等)による支出11億95百万円、敷金及び保証金の差入による支出20百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億59百万円の支出(前年同期は1億77百万円の収入)となりました。長期借入金の返済による支出66百万円、配当金の支払額1億64百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

以上の結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、12億71百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日に公表いたしました2025年3月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回予想(A)	10,944	400	294	123	17.86
今回予想(B)	11,000	230	215	99	14.35
増減(B-A)	56	△170	△79	△24	—
増減率(%)	0.5	△42.5	△26.9	△19.5	—
(ご参考) 前期実績	10,096	218	201	109	17.38

詳細につきましては、本日(2024年11月13日)に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,476,475	1,229,500
預け金	91,069	42,487
売掛金	1,573,196	1,421,298
商品及び製品	226,442	253,467
仕掛品	17,466	13,727
原材料及び貯蔵品	159,772	173,478
その他	106,486	125,013
貸倒引当金	△32	△27
流動資産合計	4,650,877	3,258,947
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,447,681	2,481,237
土地	1,979,201	3,064,878
その他(純額)	710,966	705,918
有形固定資産合計	5,137,849	6,252,035
無形固定資産	57,144	47,357
投資その他の資産		
敷金及び保証金	429,946	450,865
その他	326,678	311,456
貸倒引当金	△19,283	△19,233
投資その他の資産合計	737,341	743,088
固定資産合計	5,932,335	7,042,480
資産合計	10,583,212	10,301,427

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	659,948	608,315
短期借入金	1,350,000	1,350,000
1年内返済予定の長期借入金	126,687	76,667
未払金	706,317	563,527
未払法人税等	158,414	99,058
契約負債	24,155	26,495
賞与引当金	68,621	77,692
その他	359,444	362,016
流動負債合計	3,453,587	3,163,773
固定負債		
長期借入金	16,647	—
リース債務	53,539	123,557
長期未払金	180,056	176,972
退職給付に係る負債	171,447	186,088
資産除去債務	167,823	183,914
その他	110,550	114,831
固定負債合計	700,064	785,364
負債合計	4,153,651	3,949,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,719,897	1,719,897
資本剰余金	1,757,874	1,759,623
利益剰余金	3,203,142	3,084,731
自己株式	△301,845	△266,597
株主資本合計	6,379,068	6,297,656
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,499	3,235
為替換算調整勘定	45,992	51,398
その他の包括利益累計額合計	50,491	54,633
純資産合計	6,429,560	6,352,289
負債純資産合計	10,583,212	10,301,427

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	5,037,843	5,484,475
売上原価	2,362,026	2,642,376
売上総利益	2,675,816	2,842,098
販売費及び一般管理費	2,488,858	2,744,746
営業利益	186,957	97,351
営業外収益		
受取利息	143	242
受取配当金	188	212
為替差益	3,517	2,271
その他	1,687	1,008
営業外収益合計	5,536	3,734
営業外費用		
支払利息	3,695	4,262
シンジケートローン手数料	1,133	1,258
その他	106	1,419
営業外費用合計	4,936	6,940
経常利益	187,557	94,145
特別利益		
固定資産売却益	—	18,555
特別利益合計	—	18,555
特別損失		
固定資産除却損	94	1,159
固定資産売却損	310	—
投資有価証券評価損	7,853	—
特別損失合計	8,257	1,159
税金等調整前中間純利益	179,299	111,540
法人税、住民税及び事業税	93,698	72,666
過年度法人税等戻入額	△3,863	△19,689
法人税等調整額	14,686	11,708
法人税等合計	104,521	64,686
中間純利益	74,778	46,854
非支配株主に帰属する中間純損失 (△)	△5	—
親会社株主に帰属する中間純利益	74,783	46,854

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	74,778	46,854
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,759	△1,263
為替換算調整勘定	12,758	5,405
その他の包括利益合計	15,518	4,141
中間包括利益	90,296	50,996
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	90,302	50,996
非支配株主に係る中間包括利益	△5	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	179,299	111,540
減価償却費	215,556	229,385
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△44	△55
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,025	9,071
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5,571	14,640
株式報酬費用	16,815	16,816
固定資産売却損益(△は益)	310	△18,137
固定資産除却損	94	1,159
投資有価証券評価損益(△は益)	7,853	—
受取利息及び受取配当金	△331	△454
支払利息	3,695	4,262
売上債権の増減額(△は増加)	△240,383	155,524
棚卸資産の増減額(△は増加)	△33,185	△34,422
仕入債務の増減額(△は減少)	105,603	△53,407
未払金の増減額(△は減少)	102,064	△172,242
未払又は未収消費税等の増減額	△38,174	△18,399
その他	63,829	20,715
小計	392,597	265,997
法人税等の支払額	△7,938	△106,286
法人税等の還付額	40,726	538
営業活動によるキャッシュ・フロー	425,385	160,250
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△331,809	△1,195,832
有形固定資産の売却による収入	147	21,405
無形固定資産の取得による支出	△2,534	△16,313
敷金及び保証金の回収による収入	256	—
敷金及び保証金の差入による支出	△9,216	△20,365
貸付けによる支出	△1,500	—
貸付金の回収による収入	3,276	4,487
長期前払費用の取得による支出	△26,104	△13,477
長期預り金の返還による支出	△3,486	△1,305
長期預り金の受入による収入	10,504	5,586
利息及び配当金の受取額	314	469
投資活動によるキャッシュ・フロー	△360,152	△1,215,343
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400,000	—
長期借入金の返済による支出	△53,333	△66,667
リース債務の返済による支出	△20,908	△24,234
非支配株主からの払込みによる収入	10	—
配当金の支払額	△145,109	△164,680
利息の支払額	△3,229	△4,270
財務活動によるキャッシュ・フロー	177,430	△259,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,413	19,389
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	258,076	△1,295,556
現金及び現金同等物の期首残高	1,359,674	2,567,544
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,617,751	1,271,987

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。なお、中間連結財務諸表に与える影響はありません。

(中間連結損益計算書に関する注記)

※1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
販売促進費	108,534千円	176,218千円
給与手当	949,095	1,009,691
賞与引当金繰入額	57,705	61,972
退職給付費用	26,226	25,579

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	1,541,106千円	1,229,500千円
預け金勘定	76,645	42,487
現金及び現金同等物	1,617,751	1,271,987

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビルの賃 貸等) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,072,210	1,883,466	—	4,955,677	—	4,955,677
その他の収益	—	—	82,165	82,165	—	82,165
(1) 外部顧客への売上高	3,072,210	1,883,466	82,165	5,037,843	—	5,037,843
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,072,210	1,883,466	82,165	5,037,843	—	5,037,843
セグメント利益	880,767	34,015	36,098	950,881	△763,924	186,957

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は763,924千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビルの賃 貸等) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,311,281	2,089,156	923	5,401,361	—	5,401,361
その他の収益	—	—	83,113	83,113	—	83,113
(1) 外部顧客への売上高	3,311,281	2,089,156	84,037	5,484,475	—	5,484,475
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,311,281	2,089,156	84,037	5,484,475	—	5,484,475
セグメント利益	795,804	48,641	34,012	878,458	△781,106	97,351

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は781,106千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。